

# はじめに

人と自然の博物館でも化石にもとづいた最先端の研究は展開していましたが、基礎研究の多くがそうであるように、数年前までは世間の耳目をそばだたせるような話題性の高い成果が出る状況ではありませんでした。ですから、他の研究領域と同じように、化石の研究も、研究成果そのものは専門分野に埋没したままで、そこで得た科学的な見方が館員の活動に活かされて、ひとはくの展開の中で、生涯学習支援やシンクタンクとしての機能に、有効に活用されていました。

2006年夏に足立洌氏、村上茂氏のお2人が、篠山層群で恐竜の化石を発見されて状況は一変しました。よく保存された恐竜の化石が、メディア関連の人たちにも関心をもたれ、広く報道される状況が続いたためです。見つかった恐竜化石の話題が分かりやすかったために、それに付随して出てくる哺乳類やカエルなどの化石まで、テレビや新聞などで詳しく紹介されるという好運に恵まれました。もちろん、発見の過程で、特定の研究者の成果だけでなく、ひとはくのかかわる事業らしく、もともと専門領域に関係ない児童生徒や市民の方々の目が捉えた新事実も多く取り上げられ、またクリーニングをおこなった人たちの目覚ましい成果が相次いだことも報道で紹介された通りです。

篠山層群の発掘はまだまだ継続しますし、発掘された化石に基づく研究はさらに長い時間を経ないと完結しません。個別の事実だけが話題となって飛びまわることもありますが、化石に関する状況の展開は全体を見渡してはじめて正確に捉えられるものです。話題性のあるところだけを拾い上げていたのでは、せつかくの成果の展開を見誤ってしまう心配さえあります。わたしたちはこのように発掘が展開する過程や、そこで明らかにされる研究の現状を、関心をもつすべての人々と共有することを期待し、この段階で、中間的にまとめて紹介しようと考え、このパンフレットをつくりました。化石の発掘とそれにとまなう新知見の発見は、特定の研究者仲間内に閉じて展開させる課題ではありません。そのことが、篠山層群の化石の総合的な調査の展開を迫ることで、たいへん分かりやすく語れるように思います。

篠山層群の化石の研究はまだその端緒についたばかりです。これまでもいろいろの新事実が分かってきました。これから、さらにいろいろな事実が解明されることと期待されます。化石の研究がどのように進展してき、今後どのように展開すると期待されるか、既存の情報を共有し、さらなる事実の解明に、より多くの人たちが、それぞれの特性を生かしてそれぞれの立場から参画されることを期待いたします。

兵庫県立人と自然の博物館  
館長 岩槻邦男